

●学校支援情報●

岡崎むかし館通信

<http://www.city.okazaki.lg.jp/libra/803/p014017.html>

郷土学習のヒントとなる情報を発信します。



今年岡崎市制施行100周年を迎えます。官民一体となり、100周年を盛り上げる様々な事業が予定されています。この機会に「ふるさと岡崎」のこれまでの100年、これからの100年を話し合うのもいいのではないでしょうか。

地域の再発見

野本先生のフィールドノートメモ

地域を歩く—西尾市— 棒の手を求めて



岡崎市で現在中止されている「棒の手」を求めて、西尾市田貫町神明社の秋の祭礼に出かけた時の様子と、この祭礼を通して学んだことを報告します。

田貫町の棒の手の伝承は天保年間、矢作川の川船船頭たちが拳母や越戸で荷待ちしている時に、偶然、猿投神社の棒の手を見学し、ムラへ土産話として持ち帰ったことが始まりとされています。そして、弘化2年(1845)に石川伊兵衛・石川平三郎・山下角蔵・石川鳶蔵が豊田宮口の鎌田流深田道場へ入門し、免許皆伝の目録を授与され、田貫町にしっかり根付いたようです。川船船頭たちが、舟運の傍ら、矢作川流域の文化を伝えた典型的な事例です。

棒の手に使う道具は刀・槍・長刀・大見槍・鎌・陣笠・十手・竹・瓢箪・^{ひょうたん}・^{たすき}・^{てこう}などです。装束は白鉢巻、白い下襦袢、白足袋、黒い半袴とズボンの中間的なものを着るのが古い時代の装束です。現在は襟に「^{えり}鎌田流」と印字された白衣にピンク色の^{てこう}を掛け、黒色の足袋を履き、手甲を巻きます。

田貫町棒の手保存会は秋の祭礼に奉納するため、1ヶ月程前から練習を始めます。毎回、公民館で夕方6時から2時間程行います。参加者は小学校2年生から60代後半の人たちです。棒の手の演技は、2人で行うのが基本で、小学2年生からコンビを決め、息を合わせながら成長していきます。この小学生コンビを指導していくのが、30代の若い世代です。そして彼らに、棒の手の極意・取り決めをしっかりと伝承していくのが保存会長を中心とする60代後半世代です。

地域の再発見 (地域を歩く-西尾市- 棒の手を求めて つづき)

この棒の手は田貴町にとってどのような役割を担っているのか、棒の手保存会の各世代に質問したところ、異口同音に「地域の楽しみであり、地域のまとまりを保つためには必要不可欠なもの」と答えてくれました。また、この学区の小・中学校の先生たちも棒の手の奉納に参加しており、「地域で子どもを育てるには、この祭礼をいつまでも伝える必要がある」と語っていたのが印象的でした。

地域から学ぶことがたくさんあると実感できたひと時でした。これからも地域をじっくりと歩き、地域から学び、地域の方々と「考える」場面を増やしていきたいと思います。【N】

● 棒の手とは

棒を中心にした武術系の民俗芸能。愛知県中央部を中心に県下全域で行われていた。伝承は諸説あるが、もとは武器を持たない農民の自衛武術ともいわれる。有力社寺に奉納する馬の塔警護の役割とともに発展した。
(『祭・芸能・行事大辞典』朝倉書店、2009年より)

《棒の手の主な掛け声》

*「ヤアー」: 睨み合って演技動作にかかる前に発する。
*「エイ」: 打ち込む時に発する。
*「ハッ」 / *「トウ」 / *「コレガ」
*「サトコイ」: 太刀が飛び上がる際に発する。
*「ドコイ」: 演技の最後
練習時、指導者の細かい注意に小学生たちも真剣に耳を傾けていました。

むかし館の活動より

岡崎の古い写真を募集しています！

むかし館では、市制施行100周年記念事業に関連して、《未来に残すみんなの岡崎「百」選》と題して、時代とともに移り変わる岡崎の姿をとらえた写真を募集しています。応募写真のうち約100点を選択し、一般公開展示などで紹介する予定です。また、りぶら館内で自由に閲覧できる「りぶら映像アーカイブス」での活用も考えています。年代別に映像や写真を紹介するもので、学校に関する資料も収録しています。

この機会に、各校で保管している写真などで、提供可能なものがございましたら、ぜひご協力ください。募集の詳細については、チラシまたはむかし館ホームページをご覧ください。



りぶら映像アーカイブスより 連尺小学校の給食風景／1959年



りぶら映像アーカイブスより 北野小学校開校／1985年

「岡崎の古い写真募集」の申込みは、市ホームページ電子申請総合窓口から、写真データ添付応募が可能です。ぜひ気軽に、思い出エピソードとともに1枚送信してみてください。

●編集/発行(隔月) 岡崎市立中央図書館・企画班 平成28年1月
〒444-0059 岡崎市康生通西4-71 tel.23-3167 / fax.23-3165

開催中 【企画展示「くらしの道具-今と昔-⑫包む・蓄える」 ～ 3/22】

お米に関する包む・蓄える道具：米を梱包したモノ、米櫃、ご飯を保温するモノ、弁当箱や甕などの道具を通して、くらしの移り変わりを紹介します。